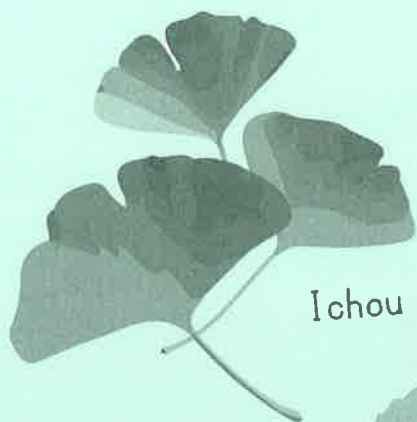


吹奏太郎



Ichou



Heiwakannon



Utsunomiya



Satsuki



Jyoushikouen



目 次

★ 巻頭言	1
「令和元年度(2019) 県吹連の一年を振り返って」 栃木県吹奏楽連盟理事長	石塚 武男
★ 1. 第19回東日本学校吹奏楽大会出場団体の感想	2
令和元年10月12日(土) 会場;金沢歌劇座	
★ 2. 第25回東関東アンサンブルコンテスト出場団体の感想	2
令和2年1月25日(土) 小学生、高等学校、大学 令和2年1月26日(日) 中学校、職場・一般 会場;宇都宮市文化会館	
★ 3. 小学生バンドの指導について ～合同バンド～	5
★ 4. クリニック情報	6
第50回日本吹奏楽指導者クリニック参加者の感想 第51回日本吹奏楽指導者クリニックについての情報	
★ 編集後記	8
栃木県吹奏楽連盟広報部	沼尾 和子

「令和元年度（2019年）県吹連の一年を振り返って」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

令和元年は学校部活動の改革元年でもありました。

元年度も終わるか・・・と思うと同時に、栃吹連として計画を立てたことを、どこまで成し遂げることが出来たかと、反省するものがあります。

指導者の皆さんも、色々と反省することがあるかと思いますが、「部活動をやるのに環境が整っていない、部員が少ない、練習時間が少ない、資金面等でうまく行っていない」と、ついつい愚痴をもらしてしまうことがあると思います。しかし、「ご自分の熱意や子供たちの熱意はどうだったろうか」と、振り返ってみると、今となると、もっと出すべきであったと、誰しも思うのではないのでしょうか。

日々のちょっとした熱意と努力をすることによって、コンクール等における成績が大きく左右されるのだと思います。少ない部員や、少ない時間、少ない資金であっても熱意を強く傾けるならば必ずや、未来に希望が開けてくることと思います。

コンクール等の結果はともあれ、それまでに子供たちと練習をした過程や、子供たちと苦しみ、喜びを共にして、音楽が好きになる子供たちが一人でも多くなれば、教育者として大きな生き甲斐を感じることでしょう。

4月になると新1年生を迎えて、慌ただしい時期となります。少子化により部員の確保が非常に難しい面があると思いますが、熱意を傾けて一人でも多くの部員確保に努力して下さることを切に望みます。今から部員とともに計画を立て、校内の諸行事での演奏や校内の片隅で新入生に対する演奏会など、部活動の素晴らしさ、管楽器、音楽の魅力を発揮できるよう部員皆で頑張って計画を立てて見て下さい。

令和元年度、残念ながら、最後の行事として予定しておりました県吹奏楽講習会「サウンドトレーニングと合奏の基本・モデルバンドを使った合奏指導」が新型コロナウイルスのため中止となってしまいましたが、県連盟の行事として、東関東吹連の選抜吹奏楽大会（足利市民会館）から始まって、各支部のフェスティバル、アンコン、講習会、県コンクール、県マーチング大会、県アンコン、東関東アンコン（宇都宮市文化会館）と、一年を通して、目まぐるしいほどの行事をこなす事ができました。

これも、役員の皆さんはもとより、行事に携わって下さった方々の並々ならぬ努力とご協力のお陰である心から感謝を申し上げます。

来年度も元気の栃吹連、団結力のある栃吹連、皆さんの栃吹連として発展できるよう、私も熱意を持って携わって行きたいと思いますので、ご協力をお願い致します。



1 第19回 東日本学校吹奏楽大会出場団体の感想

令和元年10月12日(土)

会場：金沢歌劇座

「第19回 東日本学校吹奏楽大会に出場して」

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 部長 渡邊 翔太郎

私たち吹奏楽部は、日々の厳しい練習を乗り越え、部員全員の目標である「東日本学校吹奏楽大会」に出場することができました。大会が行われた場所は、栃木県から遠く離れた金沢市。しかも台風19号が接近する中での長距離バスでの移動。前日に砺波市に着いた私たちでしたが、大会が中止になるのではないかと不安な気持ちでいっぱいでした。さらに前日金沢へ行くはずだった保護者のマイクロバスが、突然運行を断られ会場へ行けなくなったと電話が。その後保護者は、マイカー乗りあわせで演奏に間に合うように会場にかけつけてくれました。結果は銀賞でしたが、応援して下さった皆さんに感謝の気持ちを込めて精一杯演奏しました。東日本という最高の舞台で演奏できたことは、私たちの誇りです。ここまで応援して下さった皆様に感謝します。

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 3年 村山 咲良

「東日本学校吹奏楽大会」への出場は、私たち吹奏楽部の一番の大きな目標でした。今年度の部員数は近年で最も少ない21人で、この人数での演奏は大変なこともたくさんありましたが、足りない部分をみんなで補い合い、よい演奏にすることだけを考え取り組んできました。「森の贈り物」は美しい音色が特徴的で、かつ、壮大な曲です。一つ一つのフレーズを大切にすると共に力強い迫力のある演奏を目指してきました。そして、「東日本学校吹奏楽大会」という大舞台での演奏。今まで共に音楽を追求してきた部員の皆や顧問の先生方を信じて、自分たちができる音楽を精一杯表現することができました。私たちの最高の演奏を届けることができたと思います。今大会への出場を果たすことができ、音楽だけではなく、心身共に成長することができました。そして、何より、あのすばらしい舞台で演奏できたことを私は誇りに思います。

真岡市立真岡東中学校吹奏楽部 顧問 小宅 宏美

大会前日と当日、台風19号への対応では、栃木県吹奏楽連盟、北陸吹奏楽連盟から、多大なるご支援をいただき心から感謝申し上げます。千曲川決壊のため翌日、上越道で帰路につきました。サバイバル的な3日間でしたが、「森」の楽しいステージとなりました。

2 第25回 東関東アンサンブルコンテスト出場団体の感想

令和2年1月25日(土) 小学生、高等学校、大学

令和2年1月26日(日) 中学校、職場・一般

会場：宇都宮市文化会館

「仲間と挑んだ東関東アンサンブルコンテスト」

真岡市立真岡西小学校吹奏楽部 6年 種倉 芽依

1月25日、真岡西小学校から木管八重奏と打楽器三重奏の2チームが出場し、私は木管八重奏でフルートとピッコロを演奏しました。

10月に初めて楽譜が配られたとき、どちらのチームも難しい楽譜に驚きました。譜読みに苦戦し、初めてメンバー全員で曲を合わせた日は、うまくいかなかったことを覚えています。何度やっても縦がそろわず、このままでは大会までに仕上がらない、と不安でいっぱいでした。これだけでは練習が足りないと思い、休日は楽譜や楽器を持ち帰り、家で音源を聴きながら歌ったり楽器を吹いたりして、合わせるイメージをつくってくるよう、みんなで話し合っていました。しかし、それでもなかなかうまくいきません。そんな時に先生に「合わせるのは音だけか?」と指導を受け、ブレスの取り方や体で表現することなど、音以外に合わせることを意識的に練習に取り入れました。何度も繰り返して練習しているうちに、だんだんと音が合っていくことを実感でき、同時に東関東で金賞を取りたいという気持ちが強くなりました。

いよいよ東関東大会本番。緊張しながらステージに上がると、大きな拍手に後押しされるように、気持ちよく演奏をすることができました。演奏が終わってさらに大きな拍手をもらえたときは、とてもうれしかったです。結果発表が近づくにつれて、ものすごく緊張してきました。「真岡西小学校打楽器三重奏ゴールド金賞!」「真岡西小学校木管八重奏ゴールド金賞!」「キャー!!!」思わず叫んで喜んでしまいました。と同時に、緊張していたのがほぐれて、ほっとしました。今まで頑張ってきた瞬間でした。

ここまで演奏指導をくださった顧問の先生方や講師の先生方、毎日送り迎えや演奏のサポートをしてくれた保護者の皆様、そして一緒に演奏してくれた仲間たちに感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



「初めてのアンサンブルコンテスト」

宇都宮市立河内中学校吹奏楽部 部長 小金澤 夏桜

私たち河内中学校木管八重奏メンバーは8人全員が初めてのアンサンブル、そして河内中学校としても初めての東関東大会出場でしたが、とても私たちらしい演奏ができたと思います。

当日の会場は地元である宇都宮市文化会館だったので安心感はありませんでしたが、やはり「大ホールに8人の音しか響かない。」という緊張感は大きく、今までの努力や練習の成果が発揮できるかととても心配でした。また、初めて聴く他県の中学生の演奏に圧倒されたことを覚えています。

東関東大会に出演するまでに、県央地区大会、県大会と経験を積んできましたが、その中で私が一番強く感じたのは音楽をつくる楽しさでした。毎日毎日顔を見合わせて練習し、誰かが挫けそうになった時には励まし、アンサンブルを作っていく…。そんなとても大変だったけれど、とても楽しいと思えた時間をくれたのは、かけがえないメンバーと先生、そして「3つの幻影」という曲でした。今まで何十回と演奏してきたこの曲は、私たちにたくさんの苦しみと喜び、そしてとても大きな自信を与えてくれました。

東関東大会は一生の思い出となり、たくさんのことを学ばせていただく機会となりました。この貴重な経験を生かし、これからも部員一同、吹奏楽を楽しんでいきたいです。ありがとうございました。



「全力で最後まで」

栃木県立真岡北陵高等学校吹奏楽部 尾島 あゆか

第25回東関東アンサンブルコンテストに本県代表として出場させていただきました。私たち打楽器三重奏は本校から初出場でしたので、喜びと同時に緊張や不安も大きかったです。

私たちのモットーは「やるからには全力で最後まで」でした。そのため、全日本大会出場という大きな目標も掲げていました。しかし、このコンクールに向けた経験を経た今は、東関東大会に出場できたことに誇りを持っています。当日はホールがとても大きく感じられ、他校の圧巻の演奏を聴き、舞台袖で緊張が高まりました。その時先生方が「5分間3人のステージ」「やることはすべてやったから思い切り演奏するだけ」と声をかけてくださいました。そのお陰で不安を良い緊張感に変えることができました。結果は銀賞でしたが、大会に向けて丁寧にやり尽くし、本番は悔いのない演奏ができて、とても良い経験になりました。

私たちはそれぞれ学年が違うので、初めは上手くやっていたか心配でしたが、「先輩だからって手加減しないで何でも言い合おう」という先輩の言葉で、常に話し合いながら練習できました。この3人で大会に出場し、ステージで渾身の演奏ができて本当によかったと思います。東関東大会で強豪校の演奏を聴き、音色・音圧などを体験して今後活かせることがたくさん見つかりました。その課題を吹奏楽部でも共有してコンクールに向けて練習します。

最後に、指導にあたってくださった先生方、応援してくれた部員と家族に心から感謝致します。様々な方の協力を得て演奏を作り上げ、東関東大会へ駒を進められたと気づきました。このような機会をいただけたことで、私自身の成長を一つ感じられました。これからも感謝の気持ちを忘れず、吹奏楽部として聴衆の心に響く演奏を目指していきたいと思っています。ありがとうございました。

「第25回 東関東アンサンブルコンテストに出場して」

作新学院大学吹奏楽部 大野 光重

第25回東関東アンサンブルコンテストには、部員30名の中から8名が選出され、1,2年生中心の管楽八重奏という編成で出場しました。

編成に偏りがある私たちのバンドでは、取り組める楽曲が少なく、今回はコーチの先生にエルガーの「子供の魔法の杖」という曲を編曲して頂きました。

結果は銀賞で目標には届きませんでしたが、本番に集中できるよう搬入や様々なサポートをしてくれた部員、お忙しい中ご指導して下さった監督を始めコーチの先生、関係者の皆様のおかげで、自分たちの力を出し切れたと思います。また、他大学のレベルの高い演奏に刺激を受け、私達もあのような演奏が出来るよう努力を重ねて行きたいと思いました。大会を振り返ると、実際に音を出す、練習をするという事以外に練習場所の施設申請・レッスン計画・スケジュールの組み立て・大学側との連携など高校時代とは違い、学生自ら行わなくてはならない事が沢山ありました。定期試験とも時期が被り苦労した部分もありましたが、学年を超えて積極的に意見を出し合う事で、一人一人の役割を明確にでき、各々の課題を解決しながら質の高い時間を共有する事が出来ました。

約2ヶ月間、大会に出場する部員・出場しない部員と2つに分かれて活動をしてきましたが、皆が自分の役割を一生懸命にやることで良い関係ができ、部員が少なくても思いやりを持って協力し合う事で毎日の活動も積極的になり、我が部にとって非常に収穫のある大会となりました。

最後に、日頃から作新学院大学吹奏楽部を応援してくださっている皆様のおかげでこのような充実した活動が出来ている事に改めて感謝をし、私達もそれに応えていけるよう、技術も人間としても成長して行きたいと思っています。創部から7年という歴史の浅い部活動ですが、先輩方から受け継いだものを更に成長させ、栃木県の大学吹奏楽を盛り上げて行きたいと思っています。



3 小学生バンドの指導について ～合同バンド～

「少人数バンドの可能性を探る」

真岡キッズハーモニー指揮者 有馬 大志



1. はじめに

少子化の影響や働き方改革、そして子供と保護

者の習い事等に対する意識の変化などに伴い、部活動を取り巻く環境も目まぐるしい変化を見せています。吹奏楽部は「ブラック部活」などと揶揄される現状もあり、部員の減少、練習時間の確保など、活動内容が制限されてしまい今後の活動に不安を感じる先生方も多いのではないのでしょうか。

小学校の部活動も、中学校や高校と同様に大きな変化が起こっています。運動部も文化部も学校の手を離れ、外部指導者や保護者が運営を行っている部（クラブ）が全国的に増えています。メンバーの確保、指導者の確保は、どの団体も頭を抱える問題となっています。そのような現状を受け、令和元年度から「小学校」の部が「小学生」の部に変更になったことは、大きな変化でした。規約改正以前はD部門にのみ参加できた合同バンドが、小学生部門で東関東大会・東日本大会出場への可能性を得たのです。

2. 合同バンドの活動（経緯、役割分担）

私が現在指導している真岡キッズハーモニー（MKH）は、10年以上前から真岡小学校と真岡東小学校の合同バンドとして活動してきたバンドです。以前は両校とも教員が指導するそれぞれの部活動でしたが、部員と指導者の確保に難を抱えたのを機に、外部指導者をたて2校の合同バンドとしての活動を主としてきたと伺っています。

現在、真岡小学校吹奏楽部（JS 真岡）の部員は14名、私が勤務する真岡東小学校吹奏楽部（JWS）も14名と、いずれも少人数のバンドです。それぞれ学校行事での演奏や昼休みのミニコンサート、チラシを配るなどして活動を広め、部員の確保に努めています。合同バンドとしては、コンクールの他にも地域のイベント参加や年に一度の定期演奏会など、幅広い活動を行っています。

3. 練習概要

平日の練習は、児童が主体となって進めています。両校とも個人練習・パート練習・基礎合奏（3Dとスーパーサウンドトレーニング等）のメニューを、時間で明確に区切って行っています。東小は私が出て指導することもあります。真岡小は平日の演奏指導者は不在になるので、子供たちを信頼し任せています。

児童自身で練習を進められるようにするためには、正しい奏法を身につけさせる、良い音色や響きを理解させることから始まります。幸い、当バンドには多くの方が演奏指導に来てくださいます。楽器の扱いに長けた方、優秀で熱心なOB・OG、真岡ウインドオーケストラのメンバーなどから、奏法を直接指導してもらえるので、一人一人が理想の音色のイメージを持つことができます。

合同練習の際には、両校の児童に普段の練習で意識すべきポイントを明確に伝える必要があります。「なぜ、この基礎練習を行うのか」、「来週までに何をできるようにしておくのか」、「今うまくいっていない所がどこで、そこをクリアするにはどのような努力をすればよいのか」など、全体にも個人にも課題の提示を適宜行うことが重要だと感じています。相手が小学生でも中学生・高校生・大人でも、音楽的に求められることは同じです。「伸びしろ」のみの小学生が持つ可能性には、指導していてワクワクさせられます。小学生部門では、「小学生だからできない」ことは、もはや無いのではないかと思うほどレベルの高い演奏が繰り広げられています。今年度のコンクールを通して、練習の質が格段に上がり、合同バンドとしての団結力が高まりました。同時に、少人数での活動に悩む方々に、合同バンドとしての在り方の一例を提示することができたのではないかと感じています。

4. バンド活動において大切にしたいこと

少人数バンドでの活動は、音色の質を高めることが重要だと考えています。少人数だからこそ一人一人の音がダイレクトに聴衆に届くので、一人の持つ役割が大きくなります。人数が少なくパートが欠ける編成になると、引き出せる音はどうしても少なくなってしまいます。少ない人数で表現豊かな演奏をするためには、一人一人が作り出せる音色をどれだけ多彩にするかが重要になります。視点を変えれば、人数が少ないということは、一人一人の奏法を丁寧にチェックし音色にこだわって追及できるチャンスなのかもしれません。

昨年の東日本大会には、15名に満たない人数で出場された高校がありました。縁あって、その高校の皆さんと合同練習の機会に恵まれ、一人一人が持つ多彩な音色や響きの豊かさに大きな感銘を受けました。バンドが持つ色彩感をどこまで引き出すことができるか、これが指導者に求められることではないでしょうか。

5. 終わりに

吹奏楽部に限らず、どの部活動も「活動を通して子供たちが人として大きく成長する」貴重な経験の場であることは、誰もが実感されてきたことでしょう。私たちは時代と環境の変化に対応しつつ、未来の日本を背負って立つ子供たちに有意義な活動を提供し続け、成長の場としていくための可能性を探り続ける必要があります。「少人数だからできない」のではなく、「少人数だからこそできる」ことに目を向け、子供たちと一緒に音楽を楽しんで活動していきたいと思えます。

4 クリニック情報

「第50回 日本吹奏楽指導者クリニック参加者の感想」

真岡市立山前中学校：水越 彩（2回目参加）

□指揮法講座 講師：大井 剛史氏

「助言によってサウンドはどう変わるのか」、また「どう指揮をしてどう演奏表現をさせるのか」ということを、モデルバンドの演奏を通して聴くことができた。言葉の選び方・言い方の工夫や指揮での腕の動かし方・大きさなどで、伝わる音楽が変わるということを実感できた。基本的なことは押さえつつ、表現したい音楽を作るための指導の工夫が必要だと学んだ。

□合奏指導補 ステップアップ講座 講師：中村 俊哉氏

合奏における曲作りを中心に学んだ。小編成では、編成の偏りをカバーするためのパート割の工夫や、音楽を構成するものを細分化して、それぞれの整え方とまとめ方を学んだ。指導者が、楽譜に書かれていないことを読み取り指導して曲を作ることで、そのバンドならではの音楽ができあがるということを再確認できた。

□ポップス・アドリブ講座 講師：中川 英二郎氏

「宝島」を通して、リズムの取り方や音の厚みの作り方などを、クラシックの特徴とポップスジャズの特徴とを聴き比べながら学べた。先生自身が様々な奏法を再現されていたのが素晴らしく分かりやすかったが、それを生徒に伝えることが難しいと感じた。まずは自分が音のニュアンスなどポップス音楽の特徴を知り、中学生なりにできる奏法の指導をできるようにしたい。

□今後の抱負

吹奏楽指導に携わって間もない頃に一度参加し、少し経験を積んで今回参加できたことで、より深く学ぶこと

ができました。編成や練習時間の制限など、吹奏楽環境も変わっていくと思いますが、ここで学んだことを生かし、生徒に最適な指導・そのバンドにしかできない音楽作りを目指したいと思います。自分が学生時代に経験した濃密な吹奏楽を継承するつもりで、指導者として中学生に伝えていきたいと思います。

栃木県立小山高等学校 佐々木 美月 (1回目参加)

□バンドスタディII 合奏指導法 基礎編 講師：井田 重芳氏

音階練習の中で生徒の耳を鍛え音感を身につけさせるため、B-dur の音階を様々なパターンで行う方法が説明・実践された。指揮者（指導者）はハーモニーディレクターを活用して、基礎となる音やフレーズを提示し、様々なパターンで行い、B-dur の音階、2度音程の幅の違いや全体のバランスなど、結果として生徒の耳が色々なところに働くようになっていった。

□ビッグバンド～ビフォー・アフター～ 講師：織田 浩司氏

楽譜に書ける要素は限られているため、演奏者が曲のニュアンスなどを読み取る基本的な方法が説明された。基本的には長い音にはニュアンスをつける。リズムの中で前後にずらすものがあるが、意図的にずらしていることでリズムを活性化させている。楽曲の種類に合わせた音のニュアンスについて、実際に演奏しながら説明された。

□ポップス・アドリブ講座 講師：中川 英二郎氏

ポップスの演奏時におけるリズムのとらえ方と、普段の練習方法についての説明があった。リズムを効果的にするには、縦を合わせる必要があるが、楽器の特性から音が出るタイミングまでのタイムラグが発生することがある。その改善には音の出る瞬間で縦を合わせる練習が必要。ポップスでは、休符をクリアにすることでメリハリができる。リズム感を鍛えるためには、メトロノームなどを使用し、細分化したり強拍を別の位置に変えたりして、自分の中のカウントをより正確なものにしていく。テンポ60の曲を例に練習方法のバリエーションが提示された。

□今後の抱負

3日間の講座に参加し、これまでよりも自信をもって指導できる根拠となるような知識を得ることができたと感じています。学んだことを生かし、これからの吹奏楽部指導で、特に基礎合奏でのスキルアップや効率的・効果的な練習を実践し、その結果としていい音楽を演奏できた喜びや達成感を得られることを目指して、新しいことに取り組んでいきたいと思っています。

「2020 JAPAN BAND CLINIC 第51回 日本吹奏楽指導者クリニック」(3月15日現在)

期 日：令和2年5月15日(金)～17日(日)

会 場：静岡県浜松市アクティシティ浜松

講 座：バンドスタディ講座 「吹奏楽指導とは」「合奏指導法」「音楽表現法」

座学講座 「初めての吹奏楽指導」基礎編 ステップアップ

初心者指導を中心とした運営法

マーチング講座 「初めてのマーチング」「初めてのドリルデザイン」「マーチングパーカッション」

小編成講座 ～響きある小編成バンドの活動のために～

「合奏指導編」「編成に合わせた楽譜の見かた」「フレックス楽譜の活用法」

「選曲編」

楽器別講座 構え方や姿勢・呼吸・各種奏法 正しいトレーニング方法

楽器お手入れ講座

実演講座（モデルバンドでの実演を含む）

「指揮法」（姿勢や基本的動きなどの基礎 実践的な指揮）

「指導用機器の活用法」「日常練習の公開」 他

特別講座 「これからの吹奏楽」「ポップスにおける打楽器活用法」

全日小管研企画講座 「楽しいバンド活動へとつながる音楽の基本」 他

コンサート：15日（金）のオープニングコンサートをスタートに、17日（日）のファンイルコンサートまで、
実力派団体による演奏会

※詳細は、ホームページで確認してください。「日本吹奏楽指導者クリニック」で検索可。

なお、新型コロナウイルスの関係で、変更等が出る場合も考えられますので、随時確認してください。

♪クリニック受講料補助のお知らせ♪

東関東吹奏楽連盟から、受講料 31,000 円が全額補助されます。

♪対象者：加盟各団体の顧問・指導者

初めての参加者はもちろん、通算 3 回目までの参加者

♪参加申し込み：東関東吹奏楽連盟に申し込む

編集後記

栃木県吹奏楽連盟広報部 沼尾 和子

年度末のあわただしい時期、今年は新型コロナウイルスの対応が加わり、一層あわただしい毎日を過ごされたことと思います。栃木県吹奏楽連盟も、県主催の講習会の中止や各地区でのフェスティバルの中止など、苦渋の選択を迫られました。時間をかけて準備を進めてきただけに、言葉では言い表せない思いがあります。

東日本大震災の時もそうでしたが、この所「当たり前のこと」の有り難さをしみじみと感じています。毎日の通勤通学も吹奏楽の仲間と練習できるという、ごく普通の日常生活がままならない状況になり、多くの方が改めて「当たり前のこと」がどれ程大きなことなのか実感されているのではないのでしょうか。今は、一日も早い終息を願うばかりです。

でも、落ち込んでいても始まりません。今回の出来事に対して「何もできない」と嘆くのではなく（嘆きたい気持ちは私も一緒です）、「一日一日を、一つ一つのことを大切に一生懸命やっていく」ことを見直す機会と考えてみませんか。「普通の生活」の復活まで、今できる事にポジティブに取り組んでいきましょう。

このような状況下で、原稿をお寄せくださった方々に深く感謝いたします。とりわけ、県講習会の中止により掲載内容を変更したため、急な原稿依頼だったにも関わらず快く応じてくださった先生方に心より感謝の意を表します。ありがとうございました。

《お願い》 加盟団体それぞれの立場からの要望・意見・感想など気軽にお寄せください。

なお、原稿依頼がありましたら、お忙しいとは思いますが、是非お書きいただき、事務局にお送りいただけますようお願いいたします。

